科目名	国語総合	授業時数	週　5　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	国語を適切に表現し的確に理解する能力を育成し，伝え合う力を高めるとともに，思考力や想像力を伸ばし，心情を豊かにし，言語感覚を磨き，言語文化に対する関心を深め，国語を尊重してその向上を図る態度を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*　使える	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身に付け活用できる。文章を的確に読み取り，論理的な自己表現ができる。	相手や目的に応じて適切に「読む・書く・話す・聞く」ができる。主体的に学び，他者と協働して自分の考えをまとめたり、深化させることができる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ，言語文化への関心を深め，国語を尊重してその向上を図ろうとする。課題をすべて提出する。
	A　わかる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身に付けている。文章を的確に読み取り，論理的な自己表現に努めることができる。	文章を的確に読み取り、目的に応じて適切な文章を書くことができ、場に応じて効果的に話したり、聞き取ったりすることで自分の考えをまとめることができる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ，言語文化への関心を深め，国語を尊重してその向上を図ろうとする。課題をほぼ提出する。
	B　できる	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身に付けようとする積極的努力を行うことができる。	基礎的な語彙力，文法力に基づいて適切な自己表現ができる。他者と，相互に自己表現を共有できる。	国語で伝え合う力を進んで高めつつ，言語文化への関心を深め，国語を尊重してその向上を図ろうとする。学習意欲がある。
	C　する	伝統的な言語文化及び言葉の特徴やきまり，漢字などについて理解し，知識を身に付けるための最低限の努力ができる。	基礎的な語彙力，文法力に基づいて適切な自己表現に取り組むことができる。	授業を受ける準備ができている（教材，服装）。学習活動に参加し、課題に取り組むことができる。
評価方法		定期考査，提出物，校内漢字テスト，授業時の観察	定期考査，提出物，課題レポート，生徒相互評価，授業時の観察	授業時の観察，各種提出物（提出状況，出来栄え）

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	ぐうぜんうたがう読書のススメ（随想），待つということ（随想），古文入門（児のそら寝，検非違使忠明，絵仏師良秀），竹取物語（古文），ゴール（小説），水の東西（評論），言語は色眼鏡である（評論），スピーチ，意見文
2学期	漢文入門（故事成語・推敲，漁夫之利，借虎威），羅生門（小説），青が消える（小説）徒然草（古文），漢詩（漢文），情報と身体（評論）「もの」の科学から「こと」の科学へ（評論），万葉集・古今和歌集・新古今和歌集・土佐日記（古文），短歌創作，スピーチ
3学期	スピーチ，意見文，なめとこ山の熊（小説），平家物語・奥の細道（古文），なぜ私たちは労働するのか（評論），命は誰のものなのか（評論），雑説（漢文）

何で学ぶか(教材)

精選国語総合【改訂版】（三省堂），教科書準拠学習課題ノート，常用国語便覧（浜島書店），オリジナル教材（日本経済新聞，日本海新聞等を使用），各種補助教材（プリント等），朗読ＣＤ，常用漢字ワイドアルファ（桐原書店）

どのように学ぶか(授業方法など)

一斉講義，グループワーク，

ペアワーク，課題

スピーチや意見文を相互発表

することでお互いの良さを学ぶ

科目名	数学Ⅰ/数学Ⅱ	授業時数	週 3+1 単位	1 学年
		コース	志学 コース	

目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価	*S* 使える	事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，よさを味わうことができる。
評価	*A* わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
基準	*B* できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
基準	*C* する	簡単な計算や、目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	第1章　数と式 第2章　集合と命題 第3章　2次関数　2次方程式
2学期	第3章　2次関数　2次不等式 第4章　図形と計量 第5章　データの分析 数学Ⅱ　第1章　式と証明　第1節　式と計算
3学期	第1章　式と証明　第2節　等式・不等式の証明 第2章　複素数と方程式

何で学ぶか(教材)

・改訂版　高等学校　数学Ⅰおよび数学Ⅱ（数研出版）
・チャート式　解法と演習
数学Ⅰ＋AおよびⅡ＋B（数研出版）
・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材
問題解決的な手法を導入し，概念を創り出す場面を経験させたい。

科目名	数学A	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	数学的な見方・考え方を働かせ，数学的活動を通して，数学的に考える資質・能力の育成，さらに普段の生活に帰着させることを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	事象を数学化したり，数学的に解釈したり，数学的に表現したりすることができる。	他の領域との関連付け，別解の考察，条件の変更，異なる表現の工夫など，多面的に思考し続けることができる。	問題解決の過程を振り返り，評価・改善しようとするとともに，数学のよさを認識し，味わうことができる。
	A わかる	基本的な概念や原理・法則を体系的に理解できる。	事象を論理的，かつ統合的・発展的に考察し，簡潔・明瞭・的確に表現することができる。	解決に至る道筋をや，よりよい解決を求めて，粘り強く考え続けることができる。
	B できる	問題に応じて適切な公式を使うことができる。	事象を論理的に考察し，適切な用語・記号を使い，解決の流れを表現できる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	簡単な計算や，目的に応じて適切に式変形できる。	問題文の意味を理解し，適切な用語や記号を用いて考察することができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物	・授業 ・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	第1章　場合の数と確率
2学期	第2章　図形の性質 第3章　整数の性質
3学期	第3章　整数の性質

何で学ぶか(教材)

・改訂版　高等学校　数学A（数研出版）
・チャート式　解法と演習
　数学Ⅰ＋A（数研出版）
・プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材
概念などを自ら論理的に説明できる力まで養うような働きかけを行いたい。

科目名	コミュニケーション英語Ⅰ	授業時数	週　4　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，情報や考えなどを的確に理解したり適切に伝えたりする基礎的な能力を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	身近な話題に関する記事，レポート，資料の概要や要点を理解し，必要な情報を読み取り，要点を理解することができる。	関心のある分野の話題について，英語を用いて具体的に説明したり，意見を述べることができる。	英語を活用し，自ら様々なことを英語を用いて表現しようとすることができる。
	A わかる	身近な話題に関する短めな記事，レポート，資料の概要を理解することができる。	身近な話題や関心のある話題について簡単な語句や文を用いて，自分の意見やその理由を短く述べることができる。	できないことに挑戦し，他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	B できる	平易な英語で書かれたごく短い英文を読み，イラストや写真も参考にしながら概要を理解できる。	身近な話題などについて基本的な表現を用いて簡単な質疑応答ができる。	分からないところを自ら人に聞いたり，他の者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	短い簡単な会話や説明文の意味を理解することができる。	身近で具体的な事物を表す単語の意味を理解し，発音できるようにする。	授業を受けるための準備ができている。（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）
評価方法		授業・定期考査・クリアテスト	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	Lesson1 What Can Blood Type Tell Us? Lesson2 Curry Travels around the World Lesson3 School Uniforms Lesson4 Gorillas and Humans
2学期	Lesson5 "gr8" or great? Lesson6 Biodiesel Adventure Lesson7 Eco-tour on Yakushima Lesson8 Mariko Nagai, Super Interpreter
3学期	Lesson9 Space Elevator Lesson10 Friendship over Time

何で学ぶか(教材)

Revised LANDMARK
English Communication I

必携英単語 LEAP Basic

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア学習・グループ学習
タブレット教材

科目名	英語表現Ⅰ	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	英語を通じて，積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を育成するとともに，事実や意見などを多様な観点から考察し，論理の展開や表現の方法を工夫しながら伝える能力を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*　使える	学習した文法を正しく理解しており，知識として定着している。聞き手が興味を持てるように必要な工夫が見られる。	英語で学んだことを活用して，場面・目的・状況に応じた話題について，英語らしい発音で発話することができる。	英語で聞いたり，読んだりしたことを活用し，情報や考えを話したり，書いたりして積極的に表現することができる。
	A　わかる	言語の働きや役割（文法内容等）はほぼ理解しており，聞き手に伝えたい情報量も豊かである。	英語で聞いたり，読んだりしたことを活用して，自分の考えをほぼ的確に相手に伝えることができる。	英語学習を通して，言語の持つ役割や文化的背景を理解し，相手意識を持ってコミュニケーションを図ることができる。
	B　できる	英語の文化的背景を理解し，実際のコミュニケーションにおいて必要な知識や技能を身に付けている。	英語を使う目的等に応じて，その場にふさわしい情報を表現することができる。	英語を活用して人や社会と関わり，またコミュニケーションを持つことができる。
	C　する	英語を用いたコミュニケーション活動において簡単な語句や表現などの英語を使ったり，聞いたりしている。	英作文の綴り間違いや細かい文法的なミスは見られるが，自分の意見を英語で表現しようとする。	英語を使用する大切さや，文化的背景に気づき，コミュニケーションを図ろうとする。
評価方法		・授業 ・定期考査 ・クリアテスト	・授業 ・定期考査 ・提出物 ・インタビューテスト	・授業 ・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	Lesson 1　紹介　文の種類 Lesson 2　興味・関心　文型と動詞 Lesson 3　旅行　時制 Lesson 4　スポーツ　完了形
2学期	Lesson 5　食事　助動詞 Lesson 6　観光　受動態 Lesson 7　交際　不定詞 Lesson 8　娯楽　動名詞
3学期	Lesson 9　ルール　分詞 Lesson 10　文化　関係詞 Lesson 11　社会問題　比較 Lesson 12　悩み事　仮定法

何で学ぶか(教材)

Revised Vision Quest
English Expression Ⅰ（啓林館）
英作文基礎10題ドリル（駿台文庫）
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習，ペア学習
ICTを活用した個別学習

科目名	現代社会	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	社会的な見方・考え方を働かせ、現代の諸課題を追究したり解決したりする活動を通して,広い視野に立ち,グローバル化する国際社会に主体的に生きる平和で民主的な国家及び社会の有為な形成者必要な公民としての資質・能力を育成することを目指す。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を十分に理解するとともに,諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて,事実を基に多面的・多角的に考察し公正に判断することができ,自らの意見をまとめることができる。	よりよい社会の実現を視野に,現代の諸課題を主体的に解決するための討議・調査等を行うことができる。
	A わかる	基本的な概念や理論及び現代の諸課題を概ね理解するとともに,諸資料からの情報を適切かつ効果的に調べまとめることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて,事実を基に多面的・多角的に考察し,自らの意見をまとめることができる。	現代の諸課題について,その問題点や克服のための課題等に気づくことができる。
	B できる	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題を概ね理解するとともに,諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて,事実を基に多面的・多角的に考察することができる。	現代の諸課題について,教員に対して,またはグループ内で質問することができる。
	C する	基本的な概念や理論及び現代社会の諸課題をある程度理解するとともに,諸資料からの情報を関連付けて考えることができる。	現代社会の諸課題の解決に向けて,考察することができる。	授業に意欲的に参加し,グループ内等で発言することができる。
評価方法		定期考査 提出物　等	定期考査 提出物　等	授業態度 提出物 グループ討議　等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	現代社会と青年の生き方 民主政治とは 日本国憲法の基本原理
2学期	日本の政治機構 現代社会の特質と課題 経済のしくみ
3学期	変化する日本経済 豊かな社会の実現

何で学ぶか(教材)

「現代社会」　東京書籍
「現代社会　要点サブノート」
東京書籍
最新現代社会資料集2021
第一学習社

どのように学ぶか(授業方法など)

講義、演習、グループ討議

科目名	物理	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	日常生活や社会との関連を図りながら物体の運動と様々なエネルギーへの関心を高め，目的意識をもって観察、実験などを行い、物理学的に探究する能力と態度を身につけるとともに、物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、科学的な見方や考え方を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	物理学の基本的な概念や原理・法則を深く理解し、応用的な問題において式を立て、解を導くことができる。	図表やグラフ、解の意味を読み取って深く考察することができるともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークおよび実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりできる。
	A わかる	物理学の基本的な概念や原理・法則を理解し、基本的な問題において式を立て、解を導くことができる。	図表やグラフを正確に読み取って考察することができるとともに、グラフ等を用いて適切に表現できる。	グループワークおよび実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動できる。
	B できる	物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度理解でき、公式を扱うことができる。	図表やグラフを正確に読み取り、考察することができる。	グループワークでは、分からないことを積極的に質問したり、教え合ったりできる。
	C する	物理学の基本的な概念や原理・法則がある程度わかる。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し、グループワークでは積極的に発言するともに課題レポートに取り組むことができる。
評価方法		定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど	定期考査 確認テスト 課題レポートなど

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	第２編　熱 第１章　熱とエネルギー 第３編　波 第１章　波の性質　　第２章　音
2学期	第１編　運動とエネルギー 第１章　運動の表し方 第２章　運動の法則 第３章　仕事とエネルギー
3学期	第４編　電気 第１章　物質と電気　　第２章　磁場と交流 第５編　物理学と社会 第１章　エネルギーの利用　第２章　物理学が拓く世界

何で学ぶか(教材)

教科書（『改訂版物理基礎』数研出版）
問題集（『リードLightノート物理基礎』
Google Classroom
ロイロノート

どのように学ぶか(授業方法など)

問題演習
グループワーク
実験や探究活動

科目名	生物基礎	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	日常生活や社会との関連を図りながら生物や生命現象への関心を高め，目的意識をもって観察，実験などを行い，生物学的に探究する能力と態度を育てるとともに，生物学の基本的な概念や原理・法則を理解させ，科学的な見方や考え方を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点			知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*	使える	基本的な概念・原理・法則を十分に理解し，数値の取り扱いも確実にできる。 実験，実習の技能が確実に身についている。	図表やグラフ，実験・観察データをもとに科学的に正しく考察できる。 実験・観察の結果を適切に表現できる。	グループ活動および実験や実習等においてより深く探究する姿勢を持ち，調べたり考察したりする。
	A	わかる	基本的な概念・原理・法則を概ね理解し，数値の取り扱いもできる。 実験，実習の技能が概ね身についている。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることもとに，考察することができる。	グループ活動および実験や実習等において自らの役割を見出し主体的に活動する。
	B	できる	基本的な概念・知識が概ね身についている。 実験・実習の基本的な操作ができる。	図表やグラフ，実験・観察データから分かることを指摘できる。	授業中に分からないことを積極的に質問したり，教え合ったりできる。
	C	する	基本的な概念・知識がある程度身についている。	図表やグラフをある程度読み取ることができる。	授業に意欲的に参加し，積極的に発言やグループ活動を行う。
評価方法			定期考査 確認テスト ワークシート 実験，観察，レポート等	定期考査 確認テスト ワークシート 実験，観察，レポート等	授業態度 各種提出物 グループワーク 実験，観察，レポート等

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	第１編　生物と遺伝子
2学期	第２編　生物の体内環境の維持
3学期	第３編　生物の多様性と生態系

何で学ぶか(教材)

教科書（数研出版　生物基礎(104)）

ワーク（数研出版　四訂版
リードLightノート生物基礎）

どのように学ぶか(授業方法など)

講義，演習

実験，実習

グループ活動

科目名	家庭基礎	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	人の一生と家族・福祉，衣食住，消費生活などに関する基礎的・基本的な知識と技術を習得させ，家庭生活の充実向上を図る課題解決能力と実践的な態度を育て，社会の変化に合わせて対応できる能力を身につける

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	家庭生活の意義や役割を理解し,家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけて,実践することができる。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し，課題解決を目指して思考を深め，適切に判断し工夫し創造する能力を身につけ，表現することができる。	家庭や地域の生活について関心を持ち，その向上を目指して他者と協同し，課題解決に向け主体的に取り組もうとするとともに，実践的な態度を身につけている。
	A わかる	家庭生活の意義や役割を理解し，家庭や地域の生活を充実向上するために必要な基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について自身の役割を理解し，課題を見出すことができ，適切に判断し工夫し創造する能力を身につけている。	家庭や地域の生活について関心を持ち，他者と協同し課題解決に向け主体的に取り組もうとする
	B できる	家庭生活の意義や役割を理解し，基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を見出すことができる。適切に判断する能力を身につけている。	できないことに挑戦し，他者と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	家庭生活の基礎的・基本的な知識を身につけている。	家庭や地域の生活について課題を考えることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 実習 定期テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	人とかかわって生きる 家族分野 保育分野 社会福祉分野
2学期	生活をつくる 食分野 被服分野 住居分野
3学期	消費者として自立する 消費行動 経済分野

何で学ぶか(教材)

図説　家庭基礎　(実教出版)
新図説家庭基礎学習ノート（実教出版）
2020生活学Navi　(実教出版)
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
実習
講演

科目名	社会と情報	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解させ、情報機器や情報通信ネットワークなどを適切に活用して情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行う能力を養い、情報社会に積極的に参画する態度を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	社会の中で情報及び情報技術が果たしている役割や影響を理解し、情報化の進展に主体的に対応できる。	日常生活での情報に関する知識の活用方法を適切に判断し、情報モラルを身につけることができる。	情報を収集、処理、表現するとともに効果的にコミュニケーションを行うことができる。
	A わかる	情報の特徴と情報化が社会に及ぼす影響を理解できる。	情報技術やセキュリティについての思考を深め，自身の現状を適切に把握することができる。	情報社会の在り方と情報技術の適切な活用について主体的に考え、発表し合うことができる。
	B できる	情報に関する基礎的な知識を理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	コンピュータや情報通信ネットワークなどを活用した実習に取り組むことができる。
	C する	情報に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査 提出物・実習	授業・定期考査 提出物	授業・実習

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	私たちを取り巻く情報 アナログからディジタルへ 情報の表現と伝達 インターネットの利用
2学期	ネットワークとコミュニケーション 情報化の影響と課題 法律と個人の責任
3学期	社会における情報システム 情報システムと人間 情報社会と問題解決

何で学ぶか(教材)

教科書
　社会と情報　東京書籍
関連プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

教科書を中心とする講義形式
グループ活動
PC利用による実習

科目名	体育	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	各種運動の合理的な実践を通じて、運動技能を高め、運動の楽しさや喜びを深く味わうことができるようにする。また、体の調子を整え、体力の向上を図り、公正、協力、責任などの態度を育て、生涯を通じて継続的に運動ができる資質や能力を育てる。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	実践の中で技術や戦術，正しい知識を用いて，楽しく安全に戦うことができる。	瞬時に変わるゲームの中で状況を適切に判断し,プレーをしたり指示を出すことができる。	問題解決の過程を振り返り,考察し,自ら評価・改善しようとすることができる。
	A わかる	戦術や技術を適切な場面で生かし,集団・チームの仲間と協力してプレーできる。	自分の役割を理解し,より大きな力を発揮するために,集団で取り組むことができる。	客観的な意見や映像をもとに,自らの改善点を研究できる。他者が困っている時は声を掛け合い，共に考察することができる。
	B できる	基礎練習を正しくおこない，競技に応じた技術を身に付けている。	ゲームをする上で必要な技術を理解し,またその競技のルール等を熟知している。	できないことに挑戦し,他と協働しながら問題解決へ向かおうとすることができる。
	C する	基本的な身体機能を理解し,基礎体力を身に付けている。	健康健全な身体を求め,機能解剖やトレーニング方法,また食育,栄養学などを理解している。	授業を受けるための準備ができている。(教材準備・服装・身のまわりの整理整頓など)
評価方法		授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 実技テスト	授業中の行動 年間を通しての出席状況

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	体つくり運動 体力テスト 陸上競技
2学期	バレーボール ソフトボール サッカー バスケットボール
3学期	バドミントン ダンス

何で学ぶか(教材)

大修館書店『最新高等保健体育』
大修館書店『最新高等保健体育ノート』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

基礎練習
実戦練習（ゲーム）
チーム練習・戦略会議
iPadによる分析

科目名	保健	授業時数	週　1　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	健康を保持増進するためには，個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であるというヘルスプロモーションの考え方を生かし，人々が自らの健康を適切に管理し，改善していく資質や能力を育てる。また，自らの行動を振り返り，状況に合わせてしなやかに行動する力を身に付ける。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	保健に関するさまざまな分野から課題を発見し，自らの健康を管理することおよび環境を改善することができる。	日常生活での健康に関する知識の活用方法を，社会状況に合わせて適切に判断することができる。	健康を保持増進するためには何が必要か考え，実行することができる。
	A わかる	健康を保持増進するためには，個人の行動選択やそれを支える社会環境づくりなどが大切であることがわかる。	健康についての思考を深め，社会状況に合わせて事象を考察することができる。	日々変化する健康問題について関心を持ち，自他の健康について考えることができる。
	B できる	保健に関する基礎的な知識やヘルスプロモーションの理念を理解できる。	適切な用語・記号を使い，分かりやすく解説を書くことができる。	わからないところを自ら人に聞いたり，他者が困っているときに一緒に考察することができる。
	C する	保健に関する重要語句が理解できる。	語句の意味を理解し，用語や記号を適切に用いることができる。	授業を受けるための準備ができている（教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など）。
評価方法		授業・定期考査	授業・定期考査・提出物	授業・提出物

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	健康の考え方と成り立ち，私たちの健康のすがた 健康に関する意志決定・行動選択と環境づくり 生活習慣病とその予防，食事と健康 運動・休養と健康
2学期	喫煙と健康，飲酒と健康，薬物乱用と健康 感染症とその予防，性感染症・エイズとその予防 欲求と適応機制，心身の相関とストレス 心の健康のために
3学期	交通事故の現状と要因，交通事故を防ぐために 応急手当の意義とその基本，日常的な応急手当 心肺蘇生法の原理とおこない方

何で学ぶか(教材)

大修館書店
『最新高等　保健体育[改訂版]』
大修館書店
『最新高等　保健体育ノート[改訂版]』
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
グループ学習

科目名	音楽Ⅰ	授業時数	週　1　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	音楽に対する興味・関心を持ち，積極的に音楽活動に取り組む態度を身に付ける。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	楽譜に階名を書かなくても歌唱・リコーダーの演奏ができる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけ，創造的に表現することができる。	グループ・アンサンブル学習を通して音楽表現を工夫することができる。
	A わかる	腹式呼吸やリコーダーの運指を覚え，歌唱・リコーダーの演奏ができる。	ハーモニーとリズムを感じながら曲想に合った表現ができる。	グループ・アンサンブル学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	単旋律の歌唱とリコーダーの基礎的な奏法を身につけることができる。	メロデイを流れるようにスムーズに演奏することができる。	歌唱・器楽・鑑賞・音楽理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	歌唱・演奏するための基礎的な音楽理論を理解することができる。	音楽に関心を持ち，歌唱や楽器演奏に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	音楽理論の基礎「五線」「音符と休符」 歌唱「校歌」 アルトリコーダー基礎「音階」等 アルトリコーダー「主は冷たい土の中に」
2学期	音楽理論の基礎「音名」「階名」 歌唱「翼をください」 アルトリコーダー「エーデルワイス」
3学期	音楽理論の基礎「反復記号」「楽語」 歌唱「少年時代」 アルトリコーダー「エーデルワイス」

何で学ぶか(教材)

教育芸術社「MOUSAⅠ」
プリント

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
ペア練習・グループ練習

科目名	書道Ⅰ	授業時数	週　1　単位
		コース・学年　志学　コース	1　学年

目標	書道の幅広い活動を通して，生涯にわたり書を愛好する心情を育てるとともに，感性を高め，書写能力の向上を図り，表現と鑑賞の基礎的な能力を伸ばし，書の伝統と文化についての理解を深める。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S*　使える	目的や用途に即した芸術的な表現について構成する事項を確認し，自ら表現活を行うことが出来る。	文字や書の伝統と文化について幅広く理解し，その価値を考えることが出来る。	書の持つ良さや文字に高い関心を持ち，生涯にわたって書道の文化を大切に出来る。
	A　わかる	古典の美とその技法を学び，普遍性のある表現を構想し，工夫することが出来る。	書のもつ良さや美しさを想像的に味わうことが出来る。	表現活動を通し意図的，主体的に表現の構想から完成に至るまでの充実感や喜びを味わうことが出来る。
	B　できる	書表現の諸要素を感受し，感性を働かせながら，自らの意図に基づいて構想することが出来る。	自己のねらいを達成するために，伝統的な書の美を感受し，書で表現することができる。	古典の美とその技法に関心を持ち，積極的に表現技法を高めることが出来る。
	C　する	自らの完成に基づいた表現の工夫を行い，段階的に表現力を高めることが出来る。	書の効果的な表現を模索し，実作に移すことが出来る。	書の創造的活動の喜びを味わい，主体的に表現や鑑賞の創造的活動に取り組もうとする。
評価方法		提出作品 （練習・清書作品） 理論に関する筆記試験	ワークシート	授業に臨む姿・様子 ワークシート

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	・「漢字仮名交じりの書」Ⅰ ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅠ
2学期	・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅡ ・篆刻（姓名印を1稟彫ろう） ・「漢字の書」楷書の古典に学ぶⅡ ・楷書の古典を基にした漢字創作
3学期	・「仮名の書」 ・「漢字仮名交じりの書」Ⅱ

何で学ぶか(教材)

『書Ⅰ』教育図書
補助プリント
ワークシート
書道用具一式

どのように学ぶか(授業方法など)

【実技・鑑賞・発表】
一斉授業
グループ学習

科目名	美術Ⅰ	授業時数	週　1　単位	2　学年
		コース	志学　　コース	

目標	美術に対する興味・関心を持ち，積極的に美術活動に取り組む態度を身に付ける。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	正確な描写,明度の表現ができる。他者への指導もできる。	自己のイメージを表現するための技能を身につけることができる。	全ての学習を通して表現を工夫することができる。
	A わかる	物の表現がある程度のレベルまで表現ができる。	形,材質,トーンの表現ができる。	デッサン,彩色学習に積極的に取り組むことができる。
	B できる	基礎的な表現法を身につけることができる。	構図を考えて,表現することができる。	デッサン,クロッキー,鑑賞・美術理論の学習に積極的に取り組むことができる。
	C する	基礎的な描写理論を理解することができる。	美術に関心を持ち，描写や彩色に喜びを感じることができる。	授業を受けるための準備ができている。(教材の準備・服装・身の回りの整理整頓など)
評価方法		授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート	授業 実技テスト ワークシート

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	オリエンテーション 身近なもののデッサン ・手,筆記用具など 美術選択者全員のクロッキー
2学期	色彩構成 グラデーションの効果 名画鑑賞１ ゴッホの人生とその作品,背景
3学期	作品模写 ゴッホ

何で学ぶか(教材)

高校生の美術１（日本文教出版）
副教材　スケッチブック,水彩画用具（中学校で使ったものを利用してかまいません ）。
それぞれの題材や活動で必要な材料は、半期ごとに購入してもらいます。

どのように学ぶか(授業方法など)

講義
作品鑑賞,作品,作者説明　作者の生き様、時代背景までを理解しながら芸術作品を鑑賞する(YouTubeなどの映像コンテンツの使用)

科目名	総合的な探究の時間	授業時数	週　2　単位	1　学年
		コース	志学　　コース	

目標	ビジネス・グローバル・テクノロジーそれぞれの興味関心ある分野を学び,プロジェクトに主体的に取り組むことで他者と関わり,他者視点を感じる力を養う。

どのような力を，どのレベルまで身に付けるか

評価の観点		知識・技能	思考・判断・表現	主体的に学習に取り組む態度
評価基準	*S* 使える	授業や外部講師の講演を聞く中で学んだ知識をもとに,言われた以上の工夫を加えて知識・技能を使える。	プロジェクトを考える中で,特に独創性があり,他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して特に積極的に取り組み,課題を自ら設定して解決することができる。
	A わかる	授業や外部講師の講演を聞く中で学んだ知識をもとに,求められる水準で知識・技能を使える。	プロジェクトを考える中で,特に独創性があり,他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して積極的に取り組み,与えられた課題を自らの力で解決することができる。
	B できる	授業や外部講師の講演を聞く中で学んだ知識をもとに,他者とも協力しながら課題をやり遂げることができる。	プロジェクトを考える中で,他者とも的確に協調しながら構想を形にしていくことができる。	学習内容に対して熱心に取り組み,与えられた課題を人の力も借りながら解決することができる。
	C する	授業や外部講師の講演を聞く中で学んだ知識をもとに,難しい課題にも取り組もうとする。	プロジェクトを考える中で,他者と協調しながら構想を形にしようとするができる。	学習内容に取り組み,与えられた課題を解決しようとする姿勢がある。
評価方法		レポート・プロトタイプ・プレゼン内容などの成果物	レポート・プロトタイプ・プレゼン内容などの成果物,グループ活動	レポート・プロトタイプ・プレゼン内容などの成果物,グループ活動

いつ，何を学ぶか(学習内容)

	学　習　内　容
1学期	ビジネス：チームビルディング,体験WS グローバル：チームビルディング,体験WS テクノロジー：センサーの基礎学習
2学期	ビジネス：チームビルディング,体験WS グローバル：チームビルディング,体験WS テクノロジー：センサーの基礎学習
3学期	ビジネス：チームビルディング,体験WS グローバル：チームビルディング,体験WS テクノロジー：センサーの基礎学習

何で学ぶか(教材)

ビジネス：オリジナル教材

グローバル：フリーザチルドレンジャパン提供教材

テクノロジー：オブナイズボード

どのように学ぶか(授業方法など)

・チームごとでの活動
・オンライン講演会
・講師招聘　など